

震災時の解体支援など、

制度が活用できそうな物件については対応策を打ったが、空き家は所有者がなかなか手放してくれない場合もある。

また中心市街地の空家問題は、郊外型店舗の普及などといった社会情勢とも関係しており、すぐに解決することは難しい問題であると考え。

#### ■河川改修

Q. 現在病院(※移転前)の辺りで行われているのは暫定的な掘削で、最終的な川の形になる前の川の拡幅とのことだが、きちんと工事しきらないうちに下流の工事(次の工程)に取り掛かって大丈夫なのか。

A. 河川改修については、被害を減らすためにまずは狭隘な区間を暫定掘削しているとのこと。工事についても、上流の川幅から広げてしまうと狭いままの下流で洪水が起きてしまうので下流から工事すると聞いて

いる。

#### ■新エネルギー

Q. 地元周辺に非常に風が強くて有名な場所があるのだが、これを生かして風力発電所を造ってみてはどうか。自然エネルギーで環境に優しいし、発電した電気を売れば町の収入になる。

A. 風車を建てるにはかなりの初期投資が必要とのことである。また固定価格買取制度の見直しが行われるなど、再生可能エネルギーを取り巻く条件が変わってきているところなので、町としてもしつかり検討した上で結論を出していきたい。

#### ■街路灯

Q. 町にたくさんある街路灯のLED化を進めてはどうか。

A. 26年度、小野新町地区の街路灯連絡協議会が国の補助制度を活用して市街地の街路灯254基のLED化を行っており、町もこれ

を支援している。

防犯灯についても、新設するものはLEDとしている。また既存の防犯灯もLEDに交換していきたいと考えている。



#### ■公共施設

Q. 文化の館の年末休業が多く、お正月に利用したいという人が利用できない状況である。完全休館は12月31日と1月1日くらいにしてあとは開けてはどうか。このような施設は周囲が休みのときに開いていないと人が来ないと思う。

また3月の特別整理期間ももっと短くできないか。本の整理は中学生・高校生のボランティアなどを活用すればもっと早く終わらせることができるのではない

か。子供たちが本に目を向けるきっかけにもなる。

A. 今後精査の上で検討を行いたい。

Q. 行政の一部機関で雰囲気や対応が良くないところがある。町外からいらっしゃる方もいるのだから、もっと親切に対応するべきである。

A. 職員対応の状況については、今後精査の上で適切な指導などを行いたい。

Q. 小野町の学校にエアコンが必要か。汗をかかない子供は熱中症になりやすい。子供の頃から自然の環境に慣れることがその後の健康のために良いのではないか。

A. エアコンについては、放射性物質の影響などを勘案し、窓を閉め切って授業を行うことに配慮した震災後の交付金などを用いて導入したもの。気温、室温、湿度に加え、子供たちの体力や状況を見ながら適切に使用したいと考えている

が、頂いたご意見も参考にしながら使用方法を検討していきたい。

#### ■消防団員

Q. 町の消防団員は現在定員を満たしているのか。昔と違って今は家庭の理解が得づらくなっていると思うので、定員を満たしていないときは行政区としても啓発方法を考えるようにしたい。

A. 消防団の定員は380人であり、ほぼ確保されている状況である。

#### ■高齢福祉

Q. 高齢化への対応は、具体的にどういものが行われているのか。

A. 高齢化は自然の現象で当たり前のことと考えている。福祉サービスについては、要介護認定に基づく介護サービスの提供、老人クラブや御達者クラブの活動支援など、これまでもさまざまな取り組みがなされており、従前通りの取り組み